

院内学級「わかば」の開設式が行われました。

この度、京都市立病院の小児科病棟に、京都市立鳴滝総合支援学校の分教室が開設されました。



〔教室に設置されたホワイトボード〕



小児科病棟に入院する児童・生徒の教育については、これまで、支援学校の教員がベッドサイドを訪問する形で指導を行ってきましたが、今回、分教室が病棟内に開設されたことで、2名の教員が常駐することとなり、療養中の児童・生徒の学習環境の一層の充実を図ることができます。

4月12日に行われた開設式には、当院から、院長、副院長、経営企画局長、小児科部長、小児科病棟師長が出席しました。

（竹内香 京都市立鳴滝総合支援学校校長のごあいさつ）

『わかば』と名付けられたこの教室で、『できる』『わかる』喜びを1つずつ積み上げ、児童・生徒の自信や自尊心を育てることが、病気に立ち向かっていく大きな原動力になると思います。

入院し、病気と闘いながら学ぶ子どもたちに質の高い教育を提供し、ご支援・ご協力をいただいた皆さまのご期待に応えていくことが、本校の今後の大きな使命であると考えております。

本校と致しましても最大限尽力して参りますので、今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い致します。」



〔あいさつする内藤院長〕



〔担当教員紹介の様子〕

開設式では、出席者全員で鳴滝総合支援学校の校歌を斉唱し、分教室の開設を祝いました。平成25年4月12日は、児童・生徒の新たな学習に向けた節目となりました。